Community Medicine
── 地域医療の架け橋 ──

つばさ

2023年冬号
第74号

独立行政法人地域医療機能推進機構
神 戸 中 央 病 院
〒651-1145
神戸市北区惣山町２丁目１－１
TEL　078-594-2211
FAX　078-594-2244
http://kobe.jcho.go.jp/

地域の皆さまに信頼される病院として
安全で質の高い医療を提供します。

新年のご挨拶

院長 松本 圭吾

新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルスが日本に「上陸」して３年目になりました。ちょうど100年前にいわゆる「スペイン風邪」と称される同様のウイルスのパンデミックがあり、その時は４回の感染のピークを経て、３年余りで終息しています。今回の新型コロナ感染では、まだ、３年経っていないものの次々と変異が出現し、未だ終息の道筋は見えていません。社会そして院内でも当面は「ウィズコロナ」体制での事業を継続することになりますが、根気よく対応してゆくべきかと考えます。

さて、当院は、本年７月で生田区（現　中央区）中山手に開設され75年、北区に移転して37年を迎えます。街で生まれた病院が、ニュータウンへ移り年月を経て、成熟期に入ったといえるでしょう。30～40年前に開発されたニュータウンとともに北区惣山に居を構えた当院ですが、近年、北鈴蘭台、鈴蘭台の駅を中心に再開発も進められており、新たに入居される方も少なからずおられるかと思います。当院の責務は北区の本区地域の中核的な総合病院として急性期治療を担うと同時に地域包括ケアに関連する附属施設を備えたものとして地域の住民の皆様からの多様なニーズに応えることかと考えております。当院の診療体制については、この２年間で、需要と対応力にミスマッチの大きかった消化器内科、整形外科、脳神経内科において常勤医の着任・増員で解消されつつあります。病院としては、「働き方改革」には留意しつつ、地域医療支援病院として充実した医療を展開してゆきたいと考えております。

2023年は十二支でいうと「卯年」、十干では「癸」となり干支は「癸卯（みずのとう）となり、癸卯には、「これまでの努力が花開き、実り始めること」といった縁起のよさを表しているとされます。本年も地域医療を支える病院として、蓄えた力を実りとして地域の方々へ還元できますように努めてまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

年男ご紹介

藤本　俊一：麻酔科部長

私は36歳の時に入職したので、本年でちょうど干支を1周することになります。その間に、立場も仕事の内容も変わりました。これからも変化に応じて、成長し続ける必要があると実感しています。今は手術室の安全・効率運営や特定行為研修に力を注いでいます。特定行為研修を継続しスタッフのスキルアップだけでなく意識の向上、業務のタスクシフトにも貢献したいと考えています。

大石　隼人：整形外科

はじめまして、新たな年男を迎える整形外科の大石隼人と申します。
令和5年の抱負は、挑戦をテーマにしております。
来る春より遅かれながら、大学院へ入学することになりました。
内容としては、基礎講座（解剖学教室）で全く未知の領域ですが、先代の諸先輩方が乗り越えてこられた実験や研究に私自身も挑戦し結果を残せるように精進して参ります。
また年男としてあらゆる事に挑戦し一皮むけるよう励んでいきたいと思いますので応援の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

近隣医療機関のご紹介

高乳腺クリニック

高　利守 先生

〒651-1132　神戸市北区南五葉 2丁目1-29 第2吉田ビル1F
TEL:078-596-6606　FAX:078-596-6636

診療科目：
乳腺外科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00～13:00	●	×	●	●	●	●	×
14:00～17:30	●	×	●	●	●	×	×

JCHO神戸中央病院には17年間あまり外科でお世話になり、2019年から西鈴蘭台駅前に開業いたしました。当院では乳房のしこりや痛みなどの症状のある方に対する乳がん検診を行っています。また無症状の方に対する乳がん検診も行っております。検査としてはマンモグラフィーや乳腺超音波検査を行います。当院で乳がんと診断された患者さんの多くがJCHO神戸中央病院での手術を希望され、毎週火曜日に非常勤勤務でお邪魔して手術をさせて頂いております。JCHO神戸中央病院の皆様には、この場をお借りしてお礼申し上げます。当院は昨年、日本乳がん検診精度管理中央機構の審査に合格し、マンモグラフィー検診施設に認定されました。今後も質の高い乳腺診療を行うように努力してまいりますので、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

脳梗塞になっても家で過ごせるように
【一次脳卒中センターコア施設認定のおしらせ】

脳神経外科　部長　桑山一行

脳梗塞は脳血管がつまって脳細胞が壊死し麻痺や言語障害などの症状を起こす病気です。

脳梗塞の治療は、以前は再発予防がメインで一度発症すると劇的に症状が改善することはほとんどありませんでした。しかし、近年脳梗塞の治療は再開通療法が発展し大きく変化しています。2005 年より脳血管を閉塞させる血栓を溶かす薬の点滴治療（tPA 静注療法）が行われるようになり、2010 年からは血管の中に入れた機械で血栓を体外に除去する機械的血栓回収療法が行われるようになりました。

脳梗塞は脳血管がつまってもすぐには完成せず、徐々に脳梗塞の範囲が大きくなり、多くは 4-24 時間ほどで完成します。このため極早期に脳血管を再開通できれば脳梗塞を小さく、後遺症を少なくすることができます。脳血管の再開通までの時間が 1 時間遅れると 3 か月後に日常生活が自立する確率が約 2 割減ることがわかっています。

再開通までの時間を短縮するためには、脳梗塞を発症した方が再開通療法を直ちに行える病院を受診する必要があるため、日本脳卒中学会は tPA 静注療法を常時行える施設として一次脳卒中センター（PSC）を、血栓回収療法を常時行える PSC の核となる施設として一次脳卒中センター（PSC）コア施設を認定しました。当院は 2020 年 4 月に PSC として、2021 年 4 月に PSC コア施設として認定されました。

当院では地域の皆様に、脳梗塞がおこってもすぐに受診すれば症状の改善を見込める再開通療法があるということを知って頂き、再開通療法を通じて地域医療に貢献したいと考えています。

日本医療機能評価機構の更新認定を取得しました

総務企画課

独立行政法人地域医療機能推進機構　神戸中央病院は日本医療機能評価機構の認定病院です。当院は、2015 年（平成 27 年）に認定取得していた病院機能評価（3rdG:ver1.1）の認定期間が満了することに伴い、更新認定に向けた取り組みを進めいたところに新型コロナウィルス感染症蔓延のため特例措置が適用され認定更新審査の実施を延期することを余儀なくされていました。しかし、この度、病院機能評価（3rdG:ver2.0）の更新認定を取得いたしましたので、お知らせいたします。

認定期間：2020年８月21日～2025年８月20日（認定５回目）

病院機能評価は、「組織的に医療を提供するための活動が実施されているか」、「病院機能が適切に発揮されているか」などの観点から、第三者機関（公益財団法人日本医療機能評価機構）が中立・公正な立場に立って審査を行い、一定の水準を満たした病院が認定病院となります。

認定を受けることは、患者さんが安心して安全な医療を受けるための指標となることから、今回の認定を契機に基本理念に則り、職員一同、更なる医療の質の向上に努めてまいります。

マイナンバーカードを健康保険証として利用することができます。

医事課

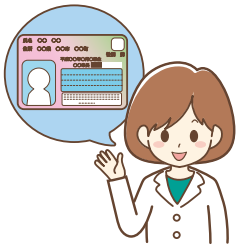
当院では、マイナンバーカードを利用した健康保険証（マイナ保険証）の資格確認（オンライン資格確認）の運用を始めています。

ただし、こども医療費受給者証、特定医療費（指定難病）受給者証、生活保護受給者に交付される医療券など、国や県による公費医療の証は、従来どおり窓口でご提示ください。

マイナ保険証を利用しご本人が同意をすれば、高額療養費制度（限度額認定証）の手続きが不要となります。また、医師や薬剤師等が特定健診・診療情報・薬剤情報を閲覧することができます。

より多くの正確な情報に基づいた総合的な診断や、重複する投薬を回避し適切な処方を受けることができ、より良い医療を受けられます。（令和5年2月より実施予定）

＊厚生労働省が定める診療報酬制度に基づき、初診料を算定する場合に『医療情報・システム基盤整備体制充実加算1（4点）又は、医療情報・システム基盤整備体制充実加算2（2点）』のいずれかを併せて算定いたします。



マイナンバーカードを健康保険証として利用する場合、事前に登録が必要です。当院でも登録できますが、設定に時間がかかるため事前の登録をおすすめします。詳しくは厚生労働省ホームページをご覧ください。

メディカルライン

《医療機関向け》

歯科口腔外科　医長　松本耕祐

小児の口腔外科治療と薬剤関連顎骨壊死に関する最近のトピックス

小児の口腔外科治療　ー全身麻酔か局所麻酔かー

15歳までを小児とした場合、2022年に年間56名（初診全患者数の約3%）が当科を受診されました。処置の多い順で、過剰歯の抜歯24例、嚢胞の摘出10例、外傷の処置6例、萌出困難歯の開窓術3例、小帯の切除2例、その他となります。

過剰歯の抜歯は永久歯の萌出障害や歯列不正を避けることを目的とし（写真1過剰歯のCT画像）、上顎前歯の交換期である5－8歳で受診されることが多く、局所麻酔下を第一に考えますが、難易度やお子さんの状態によっては全身麻酔下で行う場合もあります。

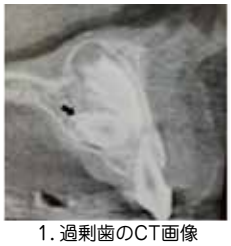
嚢胞は顎骨内だけでなく、口唇にもできる場合もあります（写真2口唇粘液嚢胞）。顎骨内の大きな嚢胞を除き、原則局所麻酔下で摘出を行います。

外傷の部位は歯や顎骨など硬組織と、口唇や舌など軟組織に分けられ、固定や縫合処置などを局所麻酔下で迅速に行いますが、0～1歳でも受傷されることがあり、状態によっては全身麻酔下で行います（写真3舌の縫合）。

萌出困難歯の開窓術（写真4開窓・牽引装置装着）は、自然萌出できない歯を誘導するための処置で、他院での矯正治療（自費治療）で必要な場合に紹介いただき、保険診療で行います。難易度が高く時間がかかる等お子さんへの負担が大きい場合には全身麻酔下で行います。

小帯は舌や上唇にあり、発語や歯並びに影響する場合に切除します。原則局所麻酔下で行い、レーザーを使用することもあります（写真5舌小帯）。

全身麻酔は最低1泊入院を必要としております。また鎮静下での治療は行っておりません。



1. 過剰歯のCT画像

2. 口唇粘液嚢胞

3. 舌の縫合

4. 開窓・牽引装置装着

5. 舌小帯

薬剤関連顎骨壊死に関する最近のトピックス

本邦における薬剤関連顎骨壊死のポジションペーパーが2016年に発表されて以来、2022年版が現在作成中のようです（2022年12月末時点）。2022年11月に開催された日本口腔外科学会学術大会において、システマティックレビューでは抜歯時の休薬を支持する根拠が得られなかったことが紹介されました。また、骨折のリスクに応じた薬剤投与は必須で、医科歯科での情報共有や連携および口腔管理の重要性が強調されました。近々発表されるポジションペーパーに掲載される内容ではないかと考えますので、当地域において患者さんが安心して骨粗鬆症の治療と歯科治療が受けられますよう、医科歯科双方で共通の基準を周知し協力をさらに進める必要があります。